

カリキュラム・教科書・アセスメントコンポーネント

ニュースレター（第17回）

教師用指導書の開発、着々と進む！

前月のニュースレターでは CDT の中だるみが少々気になっていると書きましたが、今月は CDT の皆さん、かなり頑張って作業に励んでくれました。そのおかげで、現在すべての CDT が編集作業に移っており、すでに第1ドラフトの確認作業を行っている教科もあります。来週にはすべての教科で第1ドラフトが出揃い、確認作業が行われるのではないかと思います。

同時に、教師用指導書の開発も着々と進んでいます。この作業の締め切りは今年12月末を予定していますが、今の調子で進めば、どの教科も余裕をもって完成できるのではないかと期待しています。なお、この教師用指導書は全単元網羅する必要はなく、最低限30%の単元数を網羅すればよいことにしています。しかしながら、英語、ライフスキル、道徳公民、音楽、図工、体育といった教科では、すでに全単元数の80%以上を網羅するドラフトが出来あがっているということで、CDTたちの頑張りに驚いています！

「インクルーシブ教育」ワークショップの開催

2015年11月24日（火）＜13:00-15:30＞に CREATE プロジェクト事務所のある基礎教育研究開発センター（BERDC）で初の「インクルーシブ教育」ワークショップが開催されました。このセミナーは、ブリティッシュ・カウンシル及び英国の VSO（Voluntary Service Overseas）と CREATE の共同で実施されたもので、講師として VSO のクリスティーンさんをお迎えしました。

本セミナーでは、インクルーシブ教育の定義から始まり、法的枠組み、モデルなどの理論的な側面はもちろん、現在開発している教科書をどのように「インクルーシブ」にできるかということについて意見交換を行いました。参加者は、CDT と CREATE のスタッフ、それに教育省から中等教育チーム（15名）で、合計50名程度でした。

お恥ずかしいことですが、私も含め、参加者の皆さんは、最初、「障害のある児童や生徒への特別な教育」という程度の理解しかなく、ワークショップが進んでいく中で「インクルーシブ教育」がそれまで考えていた「幅の狭い教育」ではなく、実は社会や環境を巻き込んだ大きな教育概念であることを知り、とても驚きました。

私個人的には、「ディスアビリティ（disability）とは、個人の問題や医学的な障害といった定義を越えて、社会的あるいは環境的に障害に直面している子どもたちが相互交流していく上で生じる不利益」を意味すると講師の先生が言われた瞬間、これまでの自分自身の無知さ加減に初めて気付かされ、大きなショックを受けました。

また、ワークショップの最後に、講師の先生が「『インクルーシブ教育』に関して、それほど神経質になる必要はありません。皆さんができることを一つでもいいからやってください。そうした一人ひとりの小さな一歩がものすごく大きな変化につながるのです」と言われた時には胸を打たれました。



ミャンマー教育大会で CDT 大活躍！

2015年11月28日（土）及び29日（日）にミャンマー教育大会がヤンキン教員養成校で開催されました。この会議は、教育省はもちろん、ミャンマーの教育 NGO、さらにブリティッシュ・カウンシルなどの協賛によって毎年開催されているものです。今年の大会テーマは「21 世紀における学習成果（Learning Outcomes for the 21st Century）」で、CREATE が開発している「21 世紀型スキル」を考慮した教科書とも大きく関係するということで、CREATE スタッフや CDT たちからも多くの参加がありました。特に、2 日間の会議の中で行われた全 30 のグループ・セッションのうち、8 つのセッションで CREATE 関係者がファシリテーターとなって議論を主導しており、驚いてしまいました。こういう機会を通して、CDT メンバーが徐々にですが、着実に力をつけていることが実感できました。

防災セミナー、ネピドーで開催！

2015年11月30日（月）ネピドーにて、「防災セミナー（Seminar on Build Back Better Recovery and Disaster Preparedness in Schools in Myanmar）」が開催されました。これは、教育省、JICA 及び SEEDS ASIA（日本の特定非営利活動法人）の協賛によるものです。JICA からは発表者として、CREATE のライフスキル専門家として活躍いただいている近藤ひろ子専門家にご参加いただき、「命の大切さを認識する防災教育」と題して、日本における様々な活動や経験及びミャンマーでの防災教育のあり方などについて参加者の皆さんと議論をしていただきました。

コラム：「タザウンモン月」

新暦の11月、すなわち今月はミャンマー人にとっては特別な「タザウンモン」と呼ばれる大事な月でした。この月の満月の日には「カディン」と呼ばれるお祭りが盛大に行われます。今年は11月26日がその満月の日にあたり、ヤンゴンの街も夜通し賑やかでした。

カディン祭とは、お坊さんにご法器や様々なものを寄付する仏教のお祭りで、この日のために、事前に人々は木や竹で作ったおみこしのようなものにたくさんの品物（ご法器、タオル、袈裟、お金、ほうき、筆記用具など）をのせ、当日、それをにぎやかな音楽にあわせて僧院へ運びます。このお祭りは誰でも気軽に参加でき、品物を運ぶ一団について一緒に僧院へ行くことも可能です。そして、僧院に着くと、寄付の品物を僧侶に渡して、僧侶から教えを頂くという具合です。

地方によっては、気球を上げたり、家の玄関にろうそくを灯したりするところもあるそうです。ちなみに、シュエダゴンパゴダでは僧衣織りの競争が行われました。幾人もの女性が満月の日の夕方から朝まで黄色い僧衣を織り続け、織終わった僧衣はお釈迦様の仏像に寄付されるということです。



文責：田中義隆（カリキュラム・チームリーダー）
編集：宮原光（プロジェクト・コーディネーター）